

2 基本方針

本市が直面する環境・経済・社会の諸課題を解決し、「環境・経済・社会の統合的向上」をさらに推進することで、将来像で掲げる「森里川湖の恵みを未来へつなぎ、共に育み、豊かな暮らしを実感できる循環共生のまち 東近江」の実現を目指します。

本市の地域は、以下の4つの資本から成り立っています。

- **自然資本**：森里川湖や生物など、自然を構成する要素や生態系を含む広義の生物圏。
- **人工資本**：建築物やインフラ、道路、住宅、公園など、人間が作り出した生活基盤。
- **人的資本**：人口、健康、教育、労働力など、人々の能力や資源。
- **社会関係資本**：信頼関係や人間関係で構成されるネットワーク、家族、友人、規範など。

これらの4つの資本が融合することで、私たちの地域固有の**文化資本**（伝承される歴史、祭り、生活文化など）が育まれ、地域のアイデンティティが形成されてきました。これらの要素を総称して「**地域資源**」と定義し、地域の未来にいかしていきます。

さらに、本市は、地域資源を活用した循環型経済を推進し、資源の有効活用と循環を促します。地域資源をいかしたものやサービスの販売によって市民の所得を向上させ、その増加分が市内の消費や貯蓄の拡大につながります。この経済活動が地域資源への再投資を促し、持続可能な地域経済の成長を支えるサイクルを生み出します。また、市外からの資金や人材を受け入れ、地域の自然保全や社会経済支援を強化します。これにより、地域資源の保全と持続可能な利用が一層進展します。さらに、本市は食料、水、木材などの製品や、水源涵養、自然災害防止といった生態系サービスを市外に提供し、環境保全と経済のバランスを図ります。

本計画では、「暮らし」や「社会の仕組み」の変革を軸に、以下の3つの基本方針を設定し、市民・事業者・行政が協働して持続可能なまちづくりを進めます。

- 1 地域資源をいかし、豊かさを共に育む
- 2 地域資源の再評価と保全・再生で未来を守る
- 3 地域資源をつなぎ、循環共生の仕組みを共に築く

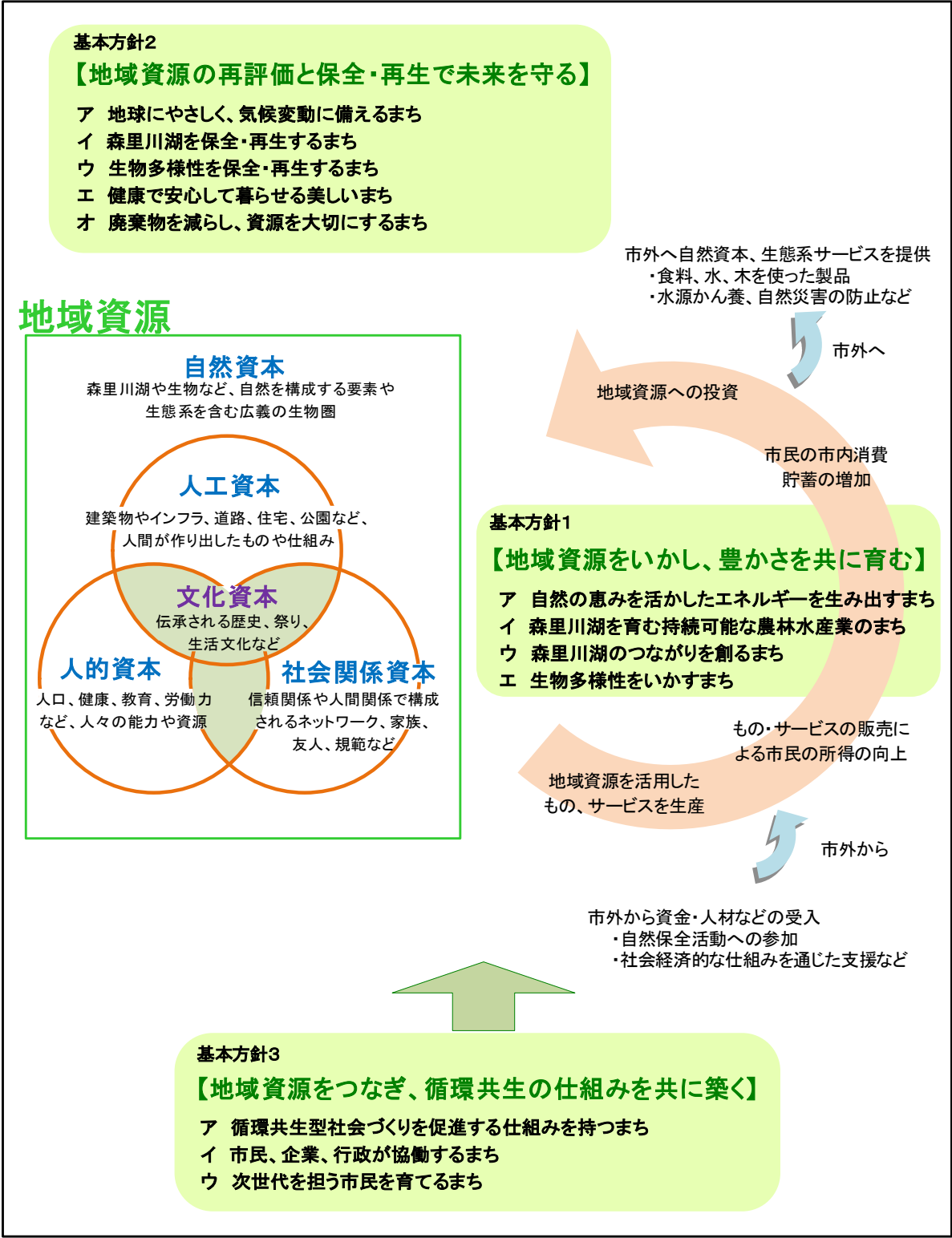


図 3 - 1 基本方針の概要図

基本方針 1：地域資源をいかし、豊かさを共に育む

～森里川湖をはじめとする地域資源を最大限に活用し、地域の魅力を高め、豊かな未来を築きます～

森里川湖は、私たちの生活の基盤であり、食料や木材、そして生態系サービスを提供する重要な資源です。しかし、人口減少や高齢化、気候変動、エネルギー問題などの課題が顕在化しており、これらの資源を持続的に活用して地域の発展を支えることが求められています。

本計画では、以下の取組を推進します。

- ① 再生可能エネルギーの拡大を通じてカーボンニュートラルな社会を実現し、エネルギー自給率を高める。
- ② 持続可能な農林水産業の振興を通じて、地域経済を循環させ、地産地消を推進する。
- ③ 生物多様性の保全とエコツーリズムの推進を通じて、地域の魅力を国内外に発信し、自然と共生する社会を築く。

これにより、資源を無駄なく循環させ、持続可能な発展を支える地域づくりを目指します。さらに、琵琶湖流域の他都市と連携し、資源循環の枠を広げ、都市と地域が支え合う「循環共生型社会」を構築します。市民が自然と調和し、豊かさと心の充実を実感できる持続可能な社会を実現します。

基本方針 2：地域資源の再評価と保全・再生で未来を守る

～自然資本や地域資源を再評価し、保全と再生を通じて、地域の価値を高め、次世代に確実に引き継ぐ地域づくりを進めます～

森里川湖をはじめとする地域資源は、私たちの生活に欠かせないものです。しかし、人口減少や気候変動の影響で、その利用や管理が縮小し、恩恵を十分に享受できなくなっています。加えて、老朽化したインフラや環境リスクへの対応も急務です。

本計画では、地域資源の再評価と保全を図り、以下の取組を推進します。

- ① 森里川湖の保全と再生
- ② 生物多様性の保全
- ③ 気候変動への適応策と温室効果ガス削減

- ④ 健康で安心な生活環境の整備
- ⑤ 持続可能な社会インフラの更新

「100 年の森づくり」や生態系の回復を通じて、次世代に豊かな自然を引き継ぎます。さらに、リサイクルの推進や廃棄物削減を図り、地域内での資源循環を促進し、持続可能な地域社会の実現を目指します。

基本方針3：地域資源をつなぎ、循環共生の仕組みを共に築く

～地域資源を有機的に結びつけ、共に循環共生型社会を実現する仕組みを整え、持続可能な地域づくりを推進します～

地域資源を持続的に活用し、循環共生型の社会を築くためには、市民、企業、行政が連携し、資源循環の仕組みを作り上げることが不可欠です。この仕組みは、地域内外の資金や人材を活用し、持続可能な社会を支える基盤となります。

本計画では、以下の取組を推進します。

- ① 企業や市民との連携による資金調達と協働の仕組みづくり
- ② 地域内資源のつながりを強化し、持続可能なモデル地域の構築
- ③ 次世代を担う市民の育成と自然資源を楽しめる場づくり

地域資源をいかした人材育成や協働の場を提供し、持続可能な社会の担い手を育てます。こうして、地域の価値を高め、資源の循環と共生を基盤とした持続可能な社会の実現を目指します。

第1章の計画策定のポイントで示したように、これまでの施策は個別部門の課題解決を図るものでしたが、今後は、三つの基本方針に基づき、環境・経済・社会の統合的な向上の実現を目指します。市民、事業者、行政が協働し、**環境基本条例の理念（脱炭素、資源循環、自然共生、歴史文化、生活環境、協働）に沿った統合的アプローチ**を推進することが重要です。推進にあたっては、事業連携とともに、全庁的な政策連携を強化し、持続可能な地域社会の実現に向けて、環境政策の効果的な発想と構築に取り組みます。

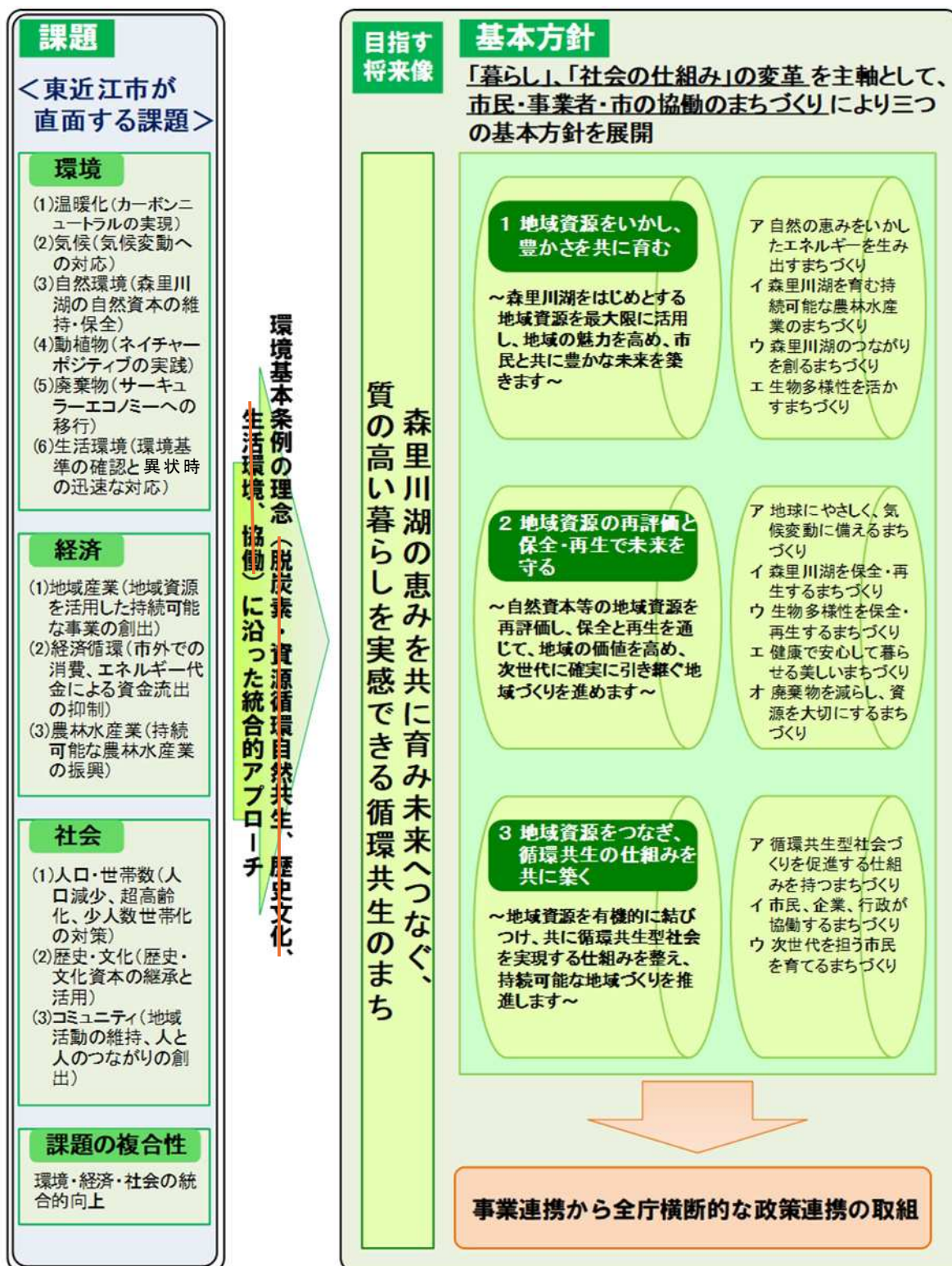


図 3-2 基本方針の概要図

1 取組の体系

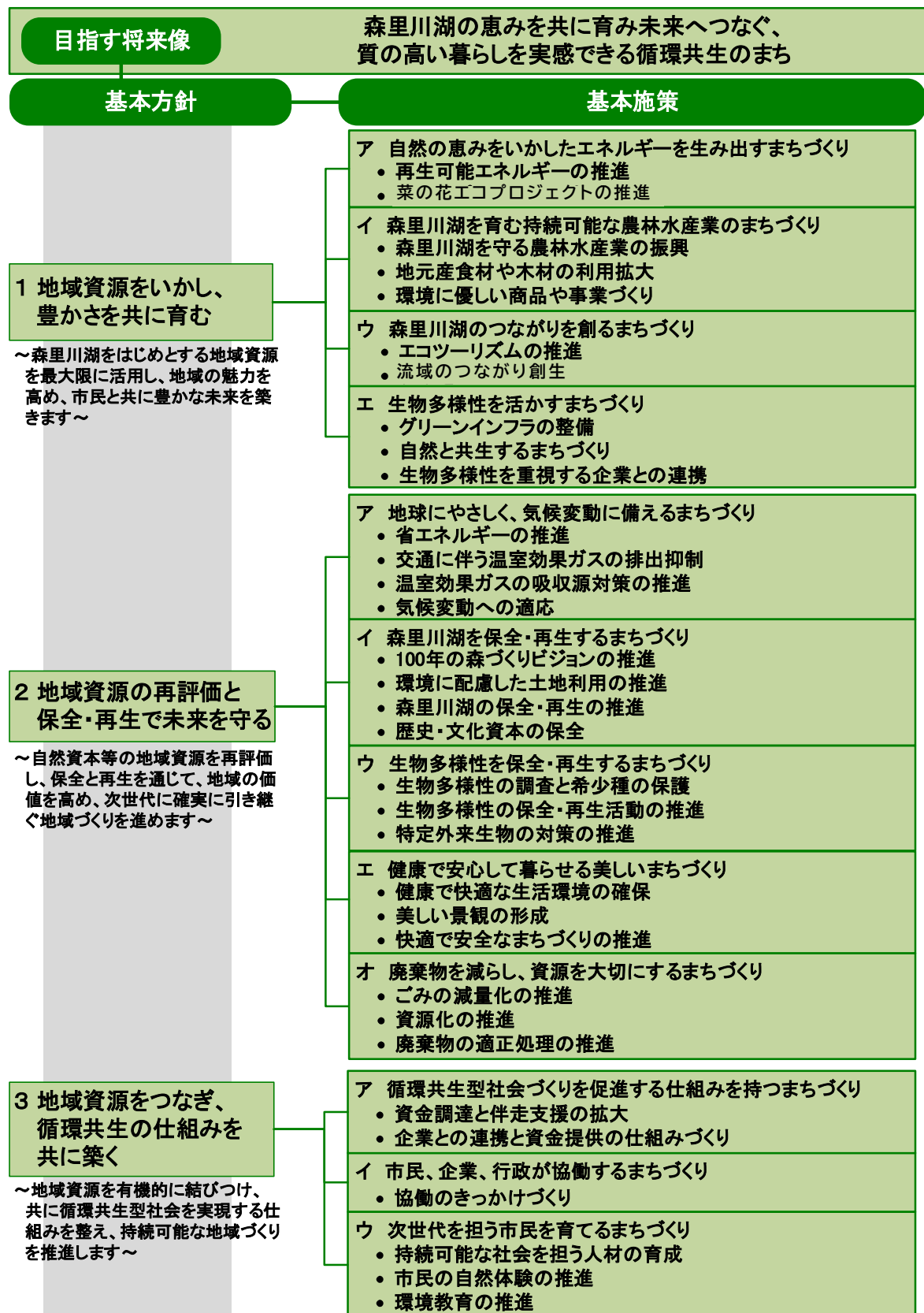


図 4 - 1 基本方針と基本施策の体系図

2 基本施策と具体的な取組

(1) 地域資源をいかし、豊かさを共に育む

基本施策ア 自然の恵みをいかしたエネルギーを生み出すまちづくり

地域の自然資源を最大限に活用し、再生可能エネルギーの利用を拡大してエネルギー自給を促進します。住宅用太陽光発電システムや太陽熱温水器の設置を推進し、廃食油からバイオディーゼル燃料（B D F）を製造することで、環境に優しいエネルギーを生み出します。また、菜の花を活用したバイオエネルギーの生産を通じて、地域のエネルギー自給力を高め、環境教育や体験学習の機会を提供します。これらの取組を通じて、自然の恵みをいかしたエネルギーを生み出すまちを目指し、持続可能な地域社会の構築に貢献します。

具体的な取組

■取組1 再生可能エネルギーの推進

地域の自然資源を最大限に活用し、再生可能エネルギーの利用拡大とエネルギー自給の促進を図ります。

- 再生可能エネルギーの導入・調査研究及び啓発を推進します。
- 住宅用太陽光発電システムや太陽熱温水器の設置を推進し、奨励金を支給します。
- 廃食油を回収し、B D Fを精製して活用します。

■取組2 菜の花エコプロジェクトの推進

菜の花を活用したバイオエネルギーの生産により、地域のエネルギー自給力を高め、環境に優しいまちづくりを推進します。

- 菜種栽培における播種面積や収穫量の最適化を図ります。
- 菜種の収穫、乾燥、搾油を一貫して実施します。
- 廃食油を回収し、B D Fを精製・活用します。（再掲）
- 菜の花館では、視察や体験学習の受け入れを行います。
- B D F燃料の利用促進のため、啓発活動を展開します。
- 菜の花館のプラント設備を適宜修繕し、維持管理を行います。
- あいとうエコプラザ菜の花館の拠点機能を充実させます。

市民・事業者の取組例

- 住宅や事業所での太陽光発電システムや太陽熱温水器などの再生可能エネルギーの導入を進め、エネルギー自給率を高めます。
- 廃食油を回収し、バイオディーゼル燃料（ＢＤＦ）として活用し、地域の再生可能エネルギーの利用を推進します。
- 菜の花館での視察や体験学習に参加し、地域のバイオエネルギーの取り組みを学びます。
- ＢＤＦ燃料の利用促進に向けた啓発活動やイベントに参加し、環境に優しいまちづくりに貢献します。

基本施策Ⅰ 森里川湖を育む持続可能な農林水産業のまちづくり

地域の自然環境を守りながら持続可能な農林水産業を振興し、地域経済を支える取組を進めます。米や麦、大豆などの主要作物の生産と品質向上を図り、農業後継者の育成や地域の農業組合等との連携を強化します。また、地元産の食材や木材の利用を促進し、地産地消を推進することで、地域経済の循環を実現します。環境に優しい商品やサービスを提供する事業を支援し、地域全体の環境意識を向上させます。これらの取り組みを通じて、森里川湖を育む持続可能な農林水産業のまちを実現し、森里川湖の未来を支える人材を育てていきます。

具体的な取組

■取組1 森里川湖を守る農林水産業の振興

地域の自然環境を守りながら、持続可能な農林水産業を振興し、地域経済を支えます。

(農業)

- 米・麦・大豆などの主要作物の生産と品質向上を図り、東近江市産のブランド確立を目指します。
- 意欲的な認定農業者の育成により、生産規模の拡大と経営改善を支援します。
- 集落営農組織の法人化や担い手育成を促進します。
- 担い手への農地利用の集積・集約を進めます。
- 農業後継者の育成を支援します。
- 農業基盤整備と適正管理を支援します。
- 米の需給調整や水稻に代わる作物の推進により、水田の高度利用と農業経営の安定化を目指します。
- 女性や新規就農者を積極的に育成し、地域農業の担い手を確保します。
- NPO等と連携し、新規就農希望者の相談活動や空き農地の斡旋を行います。
- 地域の農業組合や関係団体と連携し、市民参加型の農業振興体制を構築します。
- ひがしおうみ晴耕塾を開催し、先進的な農業情報を提供します。

(林業)

- 施業の集約化により効率的な森林管理を推進します。
- 林業の新たな担い手育成を支援します。
- 市民が森林に親しめるような整備を行い、地元材の活用を促進します。
- 林道の適正な管理・整備を行い、利用者の安全確保と林業経営基盤の強化を図ります。

(水産業)

- 水産資源の保全に配慮し、沿湖や河川漁業の振興を図ります。
- 漁場環境の整備を支援します。

■取組 2 地元産食材や木材の利用拡大

地元産の食材や木材の利用を積極的に促進し、地域経済の循環と持続可能なライフスタイルの実現を図ります。

- 地場農産物の供給拡大を推進します。
- 地産地消の推進と啓発活動を行います。
- 食育講座や農業体験講座の開催により、食育学習を促進します。
- 都市と農村の交流機会を創出し、相互理解を深めます。
- 地場農産物のブランド化と加工品開発を進めます。
- 農家の安定収入を確保するための「儲かる農業」を実現し、中規模流通システムを構築します。
- 地域商社の育成と支援を行います。
- 農林水産まつりや地域イベントの開催を通じて、販路拡大と地域の魅力発信を行います。
- 学校給食における地場農産物の利用を促進し、地産地消を推進します。

■取組 3 環境に優しい商品や事業づくり

環境配慮型の商品やサービスを提供する事業を支援し、地域全体の環境意識を向上させます。

- 環境こだわり米の生産を推進します。
- 環境保全型農業の支援とともに、環境負荷軽減を目指します。
- 有機農業の実践活動を支援します。
- 農業排水や濁水の流出防止と琵琶湖の富栄養化削減を図ります。
- 有機 J A S ・ G A P 認証取得を支援します。

- 市特産品の開発とブランド化を進めます。

市民・事業者の取組例

- 地元産の米・麦・大豆などの農産物を積極的に購入し、地産地消を推進します。
- 食育講座や農業体験講座に参加し、食育と持続可能な農業への理解を深めます。
- 農林水産まつりや地域イベントに参加し、地元産食材や加工品の購入・利用を通じて地域経済の循環に貢献します。
- 環境配慮型の農産物（環境こだわり米や有機農産物）を選び、環境負荷の軽減を目指します。
- 森林保全や地元材の活用を支援する活動に参加し、地域の林業振興を促進します。
- 水産資源の保全や漁場環境の整備活動に協力し、持続可能な水産業を支援します。

基本施策ウ 森里川湖のつながりを創るまちづくり

森里川湖の自然をいかしたエコツーリズムを展開し、地域の魅力を国内外に広める取組を進めます。琵琶湖国定公園や鈴鹿国定公園の自然景観を観光資源として活用し、地域の文化や歴史を大切にした体験型観光を推進します。また、流域全体の生態系を保全し、地域社会と自然が共生する仕組みを築くために、各主体の連携を強化します。これらの取組を通じて、森里川湖のつながりを創るまちを実現し、地域の持続可能な発展に貢献します。

具体的な取組

■ 取組 1 エコツーリズムの推進

森里川湖の自然をいかしたエコツーリズムを展開し、地域の魅力を国内外に広めます。

- 琵琶湖国定公園の湖辺域や鈴鹿国定公園の鈴鹿山脈など、優れた自然景観や独自の生態系、地域に根ざした文化を観光資源として活用し、エコツーリズムを推進します。
- 森里川湖の原風景を未来に引き継ぐエコツーリズムを進めます。
- 全体構想に基づくエコツアーを実施し、ガイドの育成やツアーの認定を行います。
- 「鈴鹿 10 座」エコツーリズムガイドのフォローアップ研修を行い、登山道の整備・巡視を実施します。
- 鈴鹿 10 座ビジターセンターの整備・運営および登山者の相談窓口を設置します。
- 登山者用の駐車場の整備を検討し、鈴鹿国定公園内の拠点の管理を強化します。
- 能登川水車とカヌーランドの管理運営を行います。
- 日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」の価値を広め、観光資源として活用します。
- 奥永源寺地域でのアウトドアライフの振興を図ります。
- 森里川湖の多様な自然や歴史、文化をいかした体験交流型観光を推進します。

■取組2 流域のつながり創生

森里川湖のつながりを強化し、自然と共生する地域社会を築きます。

- 森林から集水域、湖辺域を経て琵琶湖に至る一連の流域を一体的に捉え、各主体や施策の連携を促進し、生態系と暮らしの両面での保全・再生を進めます。
- 森里川湖のつながりを基軸にした流域政策を展開します。
- 森里川湖エコツーリズムガイド養成講座を開講し、地域での観光人材の育成を進めます。
- 森里川湖3DAYキャンプや「びわ湖東近江SEA TO SUMMIT」などのイベントを開催します。(再掲)
- 愛知川内水面漁業振興協議会に参画し、地域の水産資源保全に寄与します。
- 地下水勉強会の開催により、水資源の重要性への理解を深めます。

市民・事業者の取組例

- 森里川湖の自然をいかしたエコツアーに参加し、地域の自然や文化の魅力を学び、保全活動にも協力します。
- 「鈴鹿10座」の登山やフットパスなどを楽しみ、地域のエコツーリズムを体験し、登山道やフットパスの保全活動に協力します。
- 「能登川水車とカヌーランド」や「奥永源寺地域」等でのアウトドア体験に参加し、地域の自然との触れ合いを深めます。
- 「びわ湖東近江SEA TO SUMMIT」や「森里川湖3DAYキャンプ」などのイベントに参加し、自然と共生する生活を体験します。
- 地域で開催される地下水勉強会等に参加し、水資源の重要性について理解を深めます。
- 森里川湖エコツーリズムガイド養成講座を受講し、地域観光の担い手として活動します。

基本施策エ 生物多様性を活かすまちづくり

自然をいかしたグリーンインフラを整備し、災害に強く、持続可能なまちづくりを進めます。また、地域の自然環境の回復と共生を目指し、生物多様性保全方針に基づく土地利用や生態系に配慮した取組を推進します。さらに、生物多様性を重視する企業との連携を強化し、地域経済の持続可能性を高めます。これらの取り組みにより、生物多様性を活かすまちを目指し、地域の自然資源を次世代に引き継ぎます。

具体的な取組

■取組1 グリーンインフラの整備

自然をいかしたインフラを整備し、災害に強く、持続可能なまちづくりを目指します。

- 自然生態系が持つ防災・減災機能を評価・検証し、地域特性に応じた計画や事業を通じて、自然生態系を活用した防災・減災対策を推進します。
- 森林の根や幹の発達と下層植生の繁茂を促し、水源涵養機能の持続的発揮を目指します。
- 林辺の緩衝帯整備など、災害に強い森林の整備を行います。
- 緑のカーテンプロジェクトを事業所や施設に導入し、CO₂吸収効果や室温上昇抑制により、温室効果ガスの排出削減に寄与します。

■取組2 自然と共生するまちづくり

自然環境を回復し、共生を目指したまちづくりを推進します。

- 生物多様性保全方針を検討し、地域の自然資源を守ります。
- 希少種を含む多様な野生生物が生息する市内では、原始的な自然環境だけでなく、農用地や荒廃農地にも配慮した土地利用を推進します。
- 生物の生息に配慮した森林づくりを進め、自然環境の回復を図ります。
- 「魚のゆりかご水田」など、生態系に配慮した農業の取組を推進します。

■取組3 生物多様性を重視する企業との連携

生物多様性を尊重する企業との連携を強化し、持続可能な地域経済を支えます。

- 生物多様性を含む自然資本を守り活かす社会経済活動の浸透を図り、情報発信を行います。
- 生物多様性に取り組む企業に対するインセンティブの仕組みを検討し、地域経済の持続可能性を高めます。

市民・事業者の取組例

- 緑のカーテンプロジェクトを導入し、CO₂削減や室温上昇抑制に貢献します。
- 地域の防災活動に参加し、自然生態系をいかした防災・減災対策の理解を深めます。
- 森林整備や「魚のゆりかご水田」のような生態系に配慮した農林水産業活動に参加し、自然環境の回復を支援します。
- 生物多様性を重視する地元企業の商品やサービスを利用し、持続可能な地域経済の発展に協力します。
- 生物多様性に配慮した土地利用や農地の保全活動に参加し、地域の自然資源を守ります。
- 「ネイチャーポジティブ」な取組を掲げ、地域の生態系や自然資源を守り育てる活動を企業戦略に組み込みます。例えば、原材料調達や製品開発の際に、自然資本に配慮した持続可能なサプライチェーンを構築します。

(2) 地域資源の再評価と保全・再生で未来を守る

基本施策ア 地球にやさしく、気候変動に備えるまちづくり

省エネルギー技術の導入や交通に伴う温室効果ガスの削減、森林や湿地の管理を強化することで、地球に優しい低炭素社会を実現します。気候変動に備えた防災対策やインフラ整備を進め、安全で持続可能な地域社会を築きます。これらの取組を通じて、地球にやさしく、気候変動に備えるまちを目指し、地域全体での温暖化対策を推進します。

具体的な取組

■取組1 省エネルギーの推進

省エネルギー技術を導入し、エネルギー消費の効率化を図ります。

- 住宅の省エネルギー化を推進し、エネルギー消費の削減を図ります。
- 省エネルギー性能の高い機器の普及を促進します。
- 家庭での省エネ診断を実施し、省エネ意識の向上を図ります。
- コージェネレーション（熱電併給）の設置奨励金を支給し、エネルギー効率を高めます。
- 蓄電システムの設置奨励金を支給し、エネルギーの有効活用を促進します。
- 東近江市環境マネジメントシステム「えこ・すまいる」により、公共施設のエネルギー使用量を見える化し、環境配慮型の事業推進を啓発します。

■取組2 交通に伴う温室効果ガスの排出抑制

交通における温室効果ガスの排出を抑え、低炭素社会を目指します。

- 次世代自動車の導入を推進し、交通分野のCO₂削減を図ります。
- 電動アシスト自転車の活用を促進します。
- 商業施設と連携して公共交通の利用を促進します。
- マイカーから公共交通への利用転換を啓発します。
- 歩いて楽しむ観光やサイクリング観光の振興を図り、環境に優しい観光を推進します。
- バス事業者や県と連携し、交通教育の普及や公共交通利用の促進を図ります。

- 歩いて暮らせる「まちなか居住」を推進し、都市の持続可能性を高めます。

■ 取組3 温室効果ガスの吸収源対策の推進

森林や湿地の管理を強化し、温室効果ガス削減を進めます。

- 二酸化炭素の吸収源である森林や緑地の保全・整備を進めます。
- 住宅で使用する木材に係る二酸化炭素貯蔵量を表示し、炭素の吸収・貯蔵を促進します。
- 従来の間伐に加え、主伐・再造林を進め、炭素吸収の強化を図ります。
- 緑のカーテンプロジェクトを実施し、CO₂削減に寄与します。(再掲)
- 菜の花館でのもみ殻くん炭によるクレジット化の拡大を進め、CO₂削減に取り組みます。

■ 取組4 気候変動への適応

気候変動に対応した防災対策やインフラ整備を進め、安全で持続可能な地域社会を実現します。

- スマートコミュニティの構築や太陽光発電の導入を促進し、低炭素社会の実現を図ります。
- 気候変動に適応した持続可能な産業や社会づくりを推進します。
- 気候変動の危機感を広め、適応策の定着を図ります。
- 温室効果ガス削減に向けた活動を啓発し、地域全体の温暖化対策を強化します。
- 市有施設管理において環境マネジメントシステムを導入し、持続可能な運営を図ります。

市民・事業者の取組例

- 省エネルギー性能の高い機器を導入し、家庭や職場でのエネルギー消費を削減します。
- 家庭での省エネ診断を受け、省エネ意識を高めるとともに、生活や業務でのエネルギー効率化を実践します。
- 電動アシスト自転車や公共交通を積極的に利用し、CO₂排出削減に貢献します。
- 歩いて楽しむ観光やサイクリング観光に参加し、環境に優しい観光を

推進します。

- 森林保全活動や緑地整備に参加し、CO₂吸収源の強化を支援します。
- 太陽光発電システムの導入やスマートコミュニティの構築に協力し、気候変動に対応した持続可能な社会づくりに貢献します。
- 気候変動対策や防災訓練に参加し、安全で持続可能な地域社会の実現に寄与します。

基本施策Ⅱ 森里川湖を保全・再生するまちづくり

100年の森づくりビジョンの推進や環境に配慮した土地利用を通じて、地域の自然環境を長期的に保全・再生します。森里川湖のつながりを生態系と暮らしの両面から支え、持続可能な農業や森林保全を強化します。また、地域の歴史や文化資本を次世代に引き継ぐ取組を進めることで、森里川湖を保全・再生するまちを実現します。

具体的な取組

■取組1 100年の森づくりビジョンの推進

長期的な視点で森を育て、次世代に豊かな自然を引き継ぎます。

- 100年の森づくり会議を開催し、持続可能な森林づくりを推進します。
- 地域ワークショップを開催し、住民の参加による森林保全を進めます。
- 生物多様性を考慮した森林づくりを進め、自然環境の回復を図ります。
- 森林・林業＋X（エックス）プロジェクトを推進し、林業の新たな可能性を模索します。
- 鈴鹿国定公園協会に参画し、地域の自然資源の保全を支援します。

■取組2 環境に配慮した土地利用の推進

自然環境と調和した土地利用計画を策定し、良好な環境を維持します。

- 希少種を含む多様な生物が生息する土地利用を推進し、原生的な自然だけでなく農用地や荒廃農地も保全します。
- 環境負荷の小さな都市構造を形成するため、公共交通や低炭素型物流体系の形成に向けて適切な土地利用を図ります。
- 優良農地の保全・活用を促進し、農業振興地域整備計画を適正に管理します。
- 農地の利用集積を促進し、農地の最適化を図ります。
- 耕作放棄地対策を進め、農地の有効利用を図ります。

■取組3 森里川湖の保全・再生の推進

森里川湖の生態系を保全し、再生する具体的な取組を進めます。

- 琵琶湖を中心とする水循環の維持・回復に向けて、流域全体で総合的な管理を行います。

- 森里川湖のつながりを生態系と暮らしの両面から保全・再生します。
- 環境こだわり農業や濁水防止など、持続可能な農業を推進します。
- 森林の保全と育成、漁場環境の保全に向けた活動を進めます。
- 里山保全活動を行う団体を支援し、地域の生態系を守ります。

■ 取組 4 歴史・文化資本の保全

地域の歴史や文化を守り、次世代に引き継ぐ取り組みを推進します。

- 鈴鹿の森を「森の文化博物館」として整備・運営し、自然と歴史の価値を発信します。
- 史跡や文化財の保存活用計画を策定し、地域文化を保護します。
- 地域資源をいかした観光戦略を具現化し、観光資源としての価値を高めます。
- 地域コミュニティと連携し、歴史・文化に基づく物語観光を推進します。

市民・事業者の取組例

- 森林整備ボランティアやワークショップに参加し、持続可能な森林保全や生物多様性の理解を深めます。
- 地域の自然・農地保全活動や水質保全、清掃活動に取組、環境への貢献を実践します。
- 公共交通の利用促進、家庭菜園の導入、環境配慮型農産物の選択など、低炭素型のライフスタイルを採用します。
- 持続可能な森林資源の活用や、森林・農業分野での新たなビジネスモデルの推進に協力します。
- 環境に配慮した土地利用や低炭素型物流の導入を通じて、地域の持続可能な発展に貢献します。
- 地域の歴史や文化を守る活動や「物語観光」の推進に参加し、地域資源の価値向上に寄与します。

基本施策ウ

生物多様性を保全・再生するまちづくり

生物多様性の調査を行い、希少種の保護活動を進めることで、地域の自然環境を守ります。地域全体で生物多様性の保全と再生に取り組み、自然再生や生態系ネットワークの形成を図ります。また、特定外来生物の管理を強化し、地域の生態系を守るための対策を推進します。これらの取組を通じて、生物多様性を保全・再生するまちを実現し、豊かな自然を次世代に引き継ぎます。

具体的な取組

■取組1 生物多様性の調査と希少種の保護

生物多様性の現状を把握し、希少種の保護活動を進めます。

- 生物多様性や生態系サービスへの影響を調査し、保全策を検討します。
- 生物多様性の調査を定期的に実施し、現状の把握に努めます。
- 希少種の保護活動を進め、生息環境の維持を図ります。

■取組2 生物多様性の保全・再生活動の推進

地域全体で生物多様性の保全と再生に取り組み、豊かな自然を守ります。

- 人口減少に伴い利用されなくなった土地を自然再生に活用し、県や周辺市町と連携して生態系ネットワークを形成します。
- 原生的な自然や優れた自然環境の保護・保全を行為規制等により推進します。
- 二次的自然の維持・形成には、農林水産業の適正な活動やNPOによる保全活動を支援します。
- 野生鳥獣の被害を防ぐため、侵入防止柵の設置や人材育成を推進します。
- 里山の整備や緩衝帯の設置を支援し、野生動物の適正管理を図ります。
- 生物多様性保全の方針を策定し、持続可能な森林づくりを進めます。
- 有害鳥獣の捕獲や侵入防止柵の設置を支援し、地域全体での鳥獣被害防止活動を強化します。

■ 取組 3 特定外来生物の対策の推進

特定外来生物の侵入防止と管理を強化し、地域の生態系を守ります。

- 侵略的外来種の流通・飼育の適正化を図り、野外への放出を防止します。
- 外来魚の駆除や特定外来水生植物の駆除活動を行い、生態系の回復を図ります。
- 農地周辺の里山整備を進め、外来生物の生息環境を管理します。

市民・事業者の取組例

- 希少種の保護活動に参加し、生息環境の調査や保全の支援に協力します。
- 生物多様性や生態系サービスに関する勉強会や啓発イベントに参加し、理解を深めます。
- 人口減少で利用されなくなった土地を自然再生に活用する活動に参加し、生態系ネットワークの形成に貢献します。
- 里山の整備や緩衝帯の設置に参加し、野生動物の適正管理を支援します。
- 野生鳥獣の侵入防止柵の設置や鳥獣被害防止活動に参加し、地域の生物多様性保全に貢献します。
- 特定外来生物の駆除活動に参加し、生態系の回復を支援します。
- 侵略的外来種の流通・飼育の適正化に協力し、野外への放出防止に努めます。

基本施策エ 健康で安心して暮らせる美しいまちづくり

市民が健康で快適に暮らせる環境を整備し、美しい景観を保全しながら魅力的なまちづくりを進めます。大気や水質、土壌の環境問題に対する対策を講じ、下水道の整備や緑地の確保を進めます。また、地域固有の景観や文化財を大切に、安全で快適な都市インフラを整備することで、住みやすい環境を実現します。これらの取組を通じて、健康で安心して暮らせる美しいまちを目指し、市民の生活の質を向上させます。

具体的な取組

■取組1 健康で快適な生活環境の確保

市民が健康で快適に暮らせる生活環境を整備します。

- 大気汚染や水質汚濁、土壌汚染、騒音、悪臭などの環境問題に対して、引き続き対策を実施します。
- 琵琶湖や河川の水質汚濁を防ぐため、工場や事業場の排水対策、下水道の整備、生活排水対策、農業用排水施設の整備など総合的な対策を推進します。
- 公共下水道の整備・普及、し尿の適正処理、汚水の処理などにより環境衛生を保全します。
- 河川水質や悪臭の検査、公害発生源の調査と指導、生活環境苦情の対応を進めます。
- 緑地の確保や公害防止の啓発を行い、市民にとって安全で快適な都市環境を提供します。

■取組2 美しい景観の形成

地域の美しい景観を保全し、魅力的なまちづくりを進めます。

- 琵琶湖の水辺や河川沿いの景観を保護し、市街地では緑地空間や水辺空間を創出・保全します。
- 東近江市の風景づくり条例や景観計画に基づき、水と光と風の豊かな風景を未来に継承します。
- 文化財や歴史的街道の保護・保全に配慮し、良好な景観形成を図ります。
- 「伊庭内湖の農村景観」や五個荘金堂町のまちなみ保全に取り組み、

地域固有の景観を未来に引き継ぎます。

■ 取組 3 快適で安全なまちづくりの推進

安全で快適な都市インフラを整備し、住みやすいまちを実現します。

- 琵琶湖や河川沿いの親水公園・緑地を整備し、水と緑と歴史を結ぶネットワークを形成します。
- 道路の適正管理、水辺空間の整備、河川の浚渫や除草を進めます。
- 洪水ハザードマップを活用して浸水災害の啓発を行い、土砂災害の危険箇所周知や警戒避難体制を強化します。

市民・事業者の取組例

- 大気や水質、土壌などの環境問題に関する啓発活動に参加し、環境衛生の向上に貢献します。
- 下水道や排水施設の適正利用を心がけ、地域の水質汚濁防止に協力します。
- 公害防止や緑地の保全活動に参加し、快適な都市環境の維持を支援します。
- 地域の景観保全活動や美しい景観づくりに関するイベントに参加し、魅力的なまちづくりを支援します。
- 歴史的街道や文化財の保護活動に参加し、地域の歴史と風景を守ります。
- 洪水ハザードマップの活用や防災訓練に参加し、災害リスクの理解を深め、安全なまちづくりに協力します。

基本施策 オ 廃棄物を減らし、資源を大切に作るまちづくり

廃棄物の発生を抑え、ごみの減量化や資源化を推進することで、持続可能なまちづくりを実現します。生ごみの堆肥化や食品ロス削減の啓発活動を通じて、地域全体で廃棄物削減に取り組みます。また、ごみの適正処理を徹底し、環境への影響を最小限に抑えるための施策を推進します。これらの取組を通じて、廃棄物を減らし、資源を大切に作るまちを実現し、未来のために持続可能な社会を築いていきます。

具体的な取組

■ 取組 1 ごみの減量化の推進

ごみの発生を抑え、減量化を進めます。

- 生ごみの減量や堆肥化を促進し、廃棄物の発生を抑えます。
- 生ごみ処理容器の購入に対して補助金を支給し、家庭での生ごみ処理を推進します。
- 食品ロス削減の啓発活動を行い、食品廃棄の抑制を図ります。
- レジ袋削減のため、買い物バッグの持参を呼びかけます。
- 廃棄物減量等推進審議会を通じて、ごみ減量の対策を検討します。

■ 取組 2 資源化の推進

リサイクルを進め、資源を有効活用します。

- ごみの分別方法を市民に啓発し、リサイクル意識を高めます。
- 資源回収や分別活動を推進し、再資源化を進めます。
- エコフリーマーケットの開催を支援し、リユースを促進します。
- 古紙等の資源回収活動に対する補助を行います。
- 分別のためのごみカレンダーを作成し、市民への分別啓発を行います。
- 小型家電のリサイクルを実施し、廃棄物の資源化を進めます。

■ 取組 3 廃棄物の適正処理の推進

廃棄物の適正処理を徹底し、環境への影響を最小限に抑えます。

- 家庭ごみの収集・適正処理を行い、環境保全を図ります。
- ごみ袋の作成・販売やごみステーションの設置・修繕を支援し、ごみの適正処理を促進します。

- ボランティアや自治会によるごみ回収活動を支援し、地域での廃棄物管理を強化します。
- 不法投棄のパトロールを実施し、廃棄物の適正管理を徹底します。
- 散乱ごみの回収活動を通じて、ごみの減量化や再資源化を市民に啓発します。
- 環境学習を通じて、資源循環の重要性を普及・推進します。

市民・事業者の取組例

- 生ごみの減量や堆肥化を家庭や職場で実施し、廃棄物の発生を抑制します。
- 食品ロス削減の啓発活動に参加し、食べきりや賞味期限内の消費を心がけます。
- レジ袋の利用を減らし、買い物バッグの持参を習慣化します。
- ごみの分別方法やリサイクル意識を学ぶイベントに参加し、適切な資源分別を実践します。
- エコフリーマーケットや古紙回収に参加し、リユース・リサイクル活動に貢献します。
- 家庭ごみの収集日に合わせて、正しい分別と適正処理を徹底し、環境への影響を最小限に抑えます。
- ボランティア活動や自治会のごみ回収に参加し、地域での廃棄物管理に協力します。
- 不法投棄防止パトロールに参加し、地域の清潔さと環境保全に貢献します。

(3) 地域資源をつなぎ、循環共生の仕組みを共に築く

基本施策ア 循環共生型社会づくりを促進する仕組みを持つまちづくり

循環共生型社会の実現に向けて、資金調達と伴走支援の仕組みを拡大します。寄附、助成、融資、出資など多様な資金調達手段を活用し、市民活動の持続可能な運営を支援します。また、企業との連携を強化し、CSR（企業の社会的責任）やESG（環境・社会・ガバナンス）活動を地域課題の解決に結びつけることで、資金提供の枠組みを整えます。これらの取り組みを通じて、循環共生型社会づくりを促進する仕組みを持つまちを目指し、地域全体の持続可能な発展を実現します。森里川湖のつながりを創るまちづくりを推進します。

具体的な取組

■取組1 資金調達と伴走支援の拡大

循環共生型社会の実現に向けて、資金調達と伴走支援を強化します。

- 休眠預金制度、提携融資制度、ふるさと納税制度、ソーシャルインパクトボンドなど、多様な資金調達手段を活用し、東近江三方よし基金と連携して拡大します。
- 市民活動の資金調達の仕組みを構築し、持続可能な活動を支援します。
- 市民活動の資金調達に関する情報提供や支援を強化し、地域での自立した活動を促進します。

■取組2 企業との連携と資金提供の仕組みづくり

企業との連携を深め、循環共生型社会を支える資金提供の仕組みを整えます。

- 社会的インパクト投資を推進し、東近江三方よし基金と連携して持続可能なプロジェクトに資金を流入させる仕組みを整備します。
- 企業のCSRやESG活動を地域課題の解決に結びつけ、コーディネートを行います。
- 地域内金融機関と連携し、公益性の高い事業者に対して資金提供の枠組みを拡充し、東近江三方よし基金による利子補給を通じて企業の参画を支援します。

市民・事業者の取組例

- 市民活動の資金調達に関する情報を収集し、持続可能な活動のための仕組みを理解・活用します。
- 寄附やふるさと納税制度等を活用して、地域活動やプロジェクトの資金調達を支援します。
- 社会的インパクト投資に関する勉強会やワークショップに参加し、資金調達の新しい手法を学びます。
- 企業はC S RやE S G活動を地域課題の解決に結びつけ、地域社会の発展に貢献します。
- 持続可能なプロジェクトに参画し、循環共生型社会の実現に向けた資金の流れを作り出します。

基本施策Ⅰ 市民、企業、行政が協働するまちづくり

市民、企業、行政が協働して持続可能な社会を築くための取組を推進します。『東近江市協働のまちづくり条例』や『市民協働推進計画』に基づき、具体的な施策に市民と行政の連携を反映させ、地域課題の解決を目指します。また、環境基本計画における進捗管理や普及啓発を目的とした環境円卓会議を定期的を開催し、多様な主体が協力し合う仕組みを強化します。これらの取組を通じて、市民、企業、行政が協働するまちを実現し、地域の持続可能な発展に寄与します。

具体的な取組

■取組1 協働のきっかけづくり

市民、企業、行政が一体となり、持続可能な社会づくりを推進するための協働の場を提供します。

- 「東近江市協働のまちづくり条例」と「東近江市市民協働推進計画」に基づき、市民と行政の連携を具体的な施策に反映し、共に課題解決を目指します。
- 多様な主体が地域課題に取り組む仕組みを検討し、協働の枠組みを強化します。
- 市民、企業、行政、研究者が協力し、環境基本計画の進捗を管理し、普及啓発を行う「環境円卓会議運営委員会」を開催します。
- 環境基本計画の取組課題について、関係者が集まり今後の方向性を議論する「環境円卓会議」を定期的を開催します。

市民・事業者の取組例

- 地域課題に取り組む地域活動や協働の場に参加し、具体的な施策の実現に貢献します。
- 企業はCSR活動や社会的責任の一環として、地域課題の解決に向けたプロジェクトに参画します。
- 環境基本計画の方向性を議論する「環境円卓会議」に参加し、持続可能な社会の実現に向けた意見交換を行います。
- 協働の枠組み強化に向けたアイデアや提案を持ち寄り、地域課題に対する多様な視点からの解決策を探ります。

基本施策 ウ 次世代を担う市民を育てるまちづくり

持続可能な社会を支える人材を育成し、次世代を担う市民を育てる取組を進めます。市民活動の支援や自然体験の機会を提供し、こどもたちの環境意識を高めます。また、環境教育を強化し、地域全体の環境意識を向上させることで、持続可能な地域社会を実現します。これらの取組を通じて、次世代を担う市民を育てるまちを目指し、地域の未来を支える人材を育てていきます。

具体的な取組

■ 取組 1 持続可能な社会を担う人材の育成

持続可能な社会を支える人材を育成します。

- 市民活動を担う人材を発掘し、活用できる体制を整備します。
- 市民活動団体の設立や運営を支援し、持続可能な活動の拡大を促進します。
- 市民活動団体を効果的にコーディネートできる人材を育成し、地域課題の解決を支援します。
- 森に人が集まる場所を整備し、地域コミュニティの交流拠点を推進します。

■ 取組 2 市民の自然体験の推進

こどもたちに自然体験の機会を提供し、環境保全の意識を育てます。

- 河辺いきものの森や河辺の森駅、布引の森の維持管理を行い、こどもたちに自然体験の場を提供します。
- 「森里川湖 3 D A Y キャンプ」を開催し、自然と触れ合う機会を創出します。
- 水鳥観察会を支援し、こどもたちに生態系への関心を促します。

■ 取組 3 環境教育の推進

環境教育を強化し、市民全体の環境意識を高めます。

- 豊かな自然を活用した環境学習を推進し、こどもたちの環境意識を育てます。
- 河辺いきものの森や布引の森での森林環境学習「やまのこ」を通じて、

自然体験を提供します。

- 認定こども園等の近隣での四季を通じた自然体験活動を支援します。
- 市内小学4年生から6年生を対象に、夏休みの「子どもエコクラブ」を実施します。
- 東近江秋まつり（二五八祭）期間中に、環境にやさしい活動を紹介する「ECOまつり」を開催します。
- 市内幼稚園での環境キャラバン隊、小学校での小2エコクラブを通じた環境啓発活動を行います。
- 森林環境学習への支援を行い、次代を担う人材の育成に向けた豊かな体験活動を充実させます。
- 自然体験活動を通じて、こどもたちの心を育む「やまの子キャンプ」を実施します。
- 小中学校での歴史文化学習支援を通じて、こどもたちの知識と理解を深めます。

市民・事業者の取組例

- 活動団体に参加し、持続可能な社会の実現に向けた活動に貢献します。
- 市民活動を担うリーダーや団体の育成支援に参加し、地域の課題解決に取り組みます。
- こどもたちを対象にした自然体験イベントの開催や支援を行い、自然への関心と環境意識を育てます。
- 環境学習やエコイベントに参加・協力し、こどもたちの環境意識を高める活動をサポートします。
- 地域の環境イベントやエコマルシェに積極的に参加し、次世代を担う市民の育成と持続可能な地域社会づくりに貢献します。